

お知らせ

明治国際医療大学鍼灸学科 設立40周年を祝う会を開催

本学は、山崎直文先生が1925年に大阪市西区創設した山崎鍼灸学院から始まり、その中で鍼灸学科は、1978年に京都府日吉の地に明治鍼灸短期大学が開学したところから歴史がスタートしました。その後、1983年に明治鍼灸大学鍼灸学部鍼灸学科の開学、今年で短期大学開学から40周年を迎えました。そのことを記念して2019年2月9日(土)にホテルグランヴィア京都にて、「明治国際医療大学鍼灸学科設立40周年を祝う会」、翌日2月10日には「記念公開講座」を開催いたしました。祝う会では、谷口理事長、矢野学長を始め、北出名誉教授、松本名誉教授、北小路名誉教授にもご臨席頂き盛大に開催しました。教職員も多く参加し、卒業生と大いに盛り上がりました。記念公開講座では、矢野学長の「大学のこれまでと今」のご講演を頂きました。そのあと、懐かしの学内を案内し、学食での昼食を楽しんで頂きました。午後は「今、鍼灸に必要なこと」と題して、開業鍼灸師で日本鍼灸師会副会長の南治成先生(大学2期生)、病院と連携している鈴木裕明先生(短大3期生)、介護も手掛ける神尾隆文先生(短大3期生)に、「かけ算で鍼灸の未来を考える」と題して、鍼灸師・医師の寺澤佳洋先生(大学18期生)、スポーツトレーナーの佐藤哲史先生(大学14期生)、開業鍼灸師の中根一先生(大学12期生)にご講演頂きました。鍼灸学科が誇る卒業生が、それぞれのお立場から鍼灸に対する深い愛情を感じる内容でした。先人たちの思いを胸に、明治国際医療大学鍼灸学部鍼灸学科は50周年100周年に向けて、進化し続けて参ります。



武道場(明倫館)が完成しました

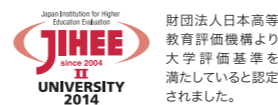


キャンパス内に武道場(明倫館)が完成し、2018年11月1日(木)に竣工式を挙行了しました。また、11月23日(金・祝)には、京都府内の高等学校を招待し、本学剣道部員も含め、京都府剣道連盟の指導者による合同稽古を実施しました。約435㎡の面積がある武道場の場内は、空調が完備され、床材には無垢の杉材が使用されています。その他、師範室や武具庫も設置されており、女子剣道部をはじめとする課外活動において、最適の環境が整い、選手の育成にも供しています。



看護学部[看護学科] * 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] * 鍼灸学部[鍼灸学科]
大学院[鍼灸学研究所・保健医療学研究所(2019年4月開設)]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL0771-72-1183 FAX0771-72-1189 E-mail gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp



財団法人日本高等教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter Vol.18

大学情報誌



ご卒業、おめでとうございます!

優しい春の風に包まれた3月15日(金)、平成最後となる卒業生133名が覚悟と誇りを胸に、新たな門出を迎えました。当日は、矢野学長の卒業生に向けた温かい式辞に始まり、各学部の代表者が卒業証書・学位記を受け取った後、保健医療学部の中村真大さんが学生の代表としてこれまでの学校生活の思い出と感謝の気持ちを答辞で述べました。夕方から行われた卒業記念パーティーでは、お世話になった教職員の先生方とともに夢に向かった仲間たちとの最後の時間を、笑いと涙で締めくくりました。人生は、日々勉強。それぞれのステージに進んでも、建学の精神である「和の精神」を大切に、これからも学び続けてほしいと思います。

成績優秀表彰者

- | | | | |
|----------------|---------------|-----------------|---------------|
| 学長賞 | 森田 典子(鍼灸学科) | 鍼灸学系大学協議会 | 近藤 修平(鍼灸学科) |
| 学長賞 | 村迫 萌生(柔道整復学科) | 日本柔道整復接骨医学会賞 | 檀上 貴契(柔道整復学科) |
| 学長賞 | 山内 亜紀(看護学科) | 日本柔道整復師会会長賞 | 檀上 達栄(柔道整復学科) |
| 全日本鍼灸学会 会長表彰 | 池上 彰子(鍼灸学科) | 日本私立看護系大学協会会長表彰 | 大見 希依(看護学科) |
| 日本鍼灸師会賞 | 相場 千絵美(鍼灸学科) | 京都府看護協会花東贈呈 | 延 千裕(看護学科) |
| 全日本鍼灸マッサージ師会表彰 | 馬場 百香(鍼灸学科) | | |



看護学部トピックス

クリスマス会

2018年12月11日(火)、附属病院にてクリスマス会が開催されました。ちょうど領域実習中であった3年生の学生たちも参加させていただき、患者様と共に和やかなひとときを過ごすことができました。患者様にいただいたパワーで、今後の実習も頑張ります!



国家試験対策委員会

この1年間、助産師2月14日(木)、保健師2月15日(金)、看護師2月17日(日)に行われた国家試験に向けて切磋琢磨し、1年間頑張りました。これまでの学習の成果が遺憾なく発揮できるよう、教員一同、応援しました。

雪山救助の最前線、マウンテンレスキュー実習

傷病者発生から救急隊員まで、 どのようにして引き継がれているのか

2019年2月18日(月)から22日(金)に長野県菅平高原にてマウンテンレスキュー実習を実施しました。この実習は、雪山におけるレジャースポーツで起こりやすい怪我や事故の傾向や予防方法を学ぶとともに、安全に適切な処置を行うために、救急隊・救助隊・スキーパトロール隊が傷病者を救助する方法を学習します。雪上では新雪で柔らかい場合もあれば、凍結して硬い場合もあります。また、スキー場のゲレンデは傾斜があるので、救急救命処置を行うにも平坦な場所と比べて格段に難易度が高くなります。寒冷環境下では傷病者の体温をあっという間に奪われてしまいます。現地のスキーパトロール隊の救助シミュレーション訓練の見学や雪上の救急救命処置訓練を通じて、大学の実習室で行う以上に慎重・丁寧・迅速な処置の重要性を体感しました。基礎的なスキーの滑り方から授業がスタートし、事故が起こった際にスキー板やストックを使用した安全管理の方法、スノーボード(患者搬送用ソリ)を使用した搬送訓練を行いました。



救急救命学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

スポーツ外傷応急処置実習

これまで学んだことを活かしてマラソン大会でケア実習を実施

柔道整復学科では「スポーツ外傷応急処置実習」として、マラソン大会・スキー場・柔道大会・救急救命学科プール実習などにおいて、応急処置や選手のケアを行っています。その中でも今回は、マラソン大会での実習を紹介します。丹波ロードレース、亀岡ハーフマラソン大会は大学近隣の市で行われているマラソン大会です。ケアブースではレース前のケアとして、ウォーミングアップストレッチの指導、ウォーミングアップジェル・オイルの塗布を行い、レース後のケアとしては、クーリングダウンストレッチの指導、クーリングダウンオイルの塗布を行います。ストレッチの指導とジェル・オイルの塗布ともに、選手に対して学生が担当者としてつき、コミュニケーションをとりながら選手の身体の状態やニーズに合わせたケアを行っています。ケアには、初対面の選手と接しながら、情報を聞き出す力、これまで学んだことをフル活用し、その情報をケアに還元する力が必要になります。学生もはじめは戸惑っている様子が見られましたが、次第に表情も明るく、自分の学んだことを引き出しながらケアにあたる様子が見られました。入学時と比較して、たのめしなくなった姿を見ることができ、充実した実習になっています。



柔道整復学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。



1年次の取り組み

新カリキュラムスタート

2018年度から全国的なカリキュラムの改定を受けて、本学鍼灸学科でも新カリキュラムがスタートしました。1年次は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と、「東洋医学概論」や「経絡経穴学」などの基礎鍼灸学、鍼灸教育への導入のための「基礎ゼミ」、将来の自分をイメージする「キャリアデザイン」、多様な鍼灸のニーズを現場で学ぶ「はり・きゅう臨床実習」などの科目を開講しています。基礎ゼミIでは「肩こり」を題材に大学で鍼灸を学ぶ意味を考えてもらいました。肩こりといってもその病態は様々で、それを理解するためには解剖学や生理学はもちろん、整形外科や内科、東洋医学などの幅広い知識が必要です。肩こりの患者を通して「なぜ学ぶのか」を考え、学生生活で幅広い知識をどのように学んでいくのかを一緒に考えました。キャリアデザインでは、これからの社会で鍼灸がどのように発展していくのかや未来の鍼灸について考えるとともに、そこに自分がどう関われるのか、鍼灸を通してどのように社会貢献できるのかを考え、自分の将来をイメージする授業を行いました。はり・きゅう臨床実習Iでは、附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、桂川鍼灸院(mythos361)、はぎの里(総合老人福祉施設)で行われている鍼灸臨床の現場に入り、患者さんと会話し、身体に触れて学ぶ早期臨床教育を行いました。鍼灸学科ではこれからの多様な社会に貢献できる鍼灸師を輩出すべく、日々教育を行っています。



鍼灸学科の授業風景やイベントなどの情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。



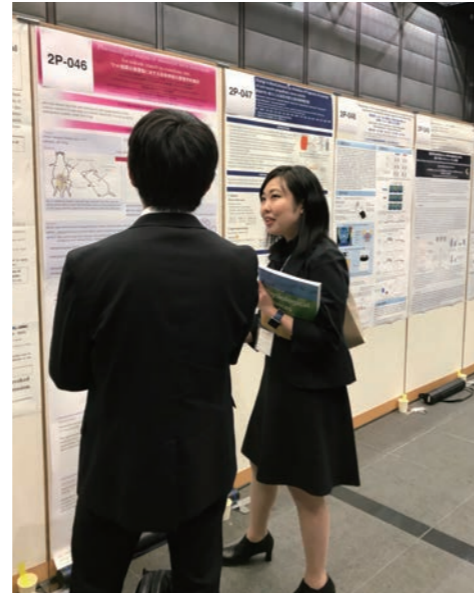
鍼灸学研究科 博士課程修了生にインタビュー

大学院の5年間で、鍼と自律神経の研究を行いました

2019年3月に本学大学院博士課程を卒業された岡田岬さんに、大学院の5年間の振り返った感想をお聞きしました。岡田さんには本学での学びを活かし、今後の活躍に期待しています。ご卒業おめでとうございます！

〈岡田さんからのコメント〉

私は本学の鍼灸学部を卒業後、鍼灸整骨院に就職しました。患者さんへ治療を行う中で、「なぜ効果があったのか?」「効果を延長させるにはどうしたらいいか?」など鍼灸に対してたくさんの疑問を持つようになったことがきっかけで、大学院への進学を決めました。修士課程2年間、博士課程3年間を通して鍼と自律神経の研究を行いました。被験者の方の心拍数や血圧を測りながら鍼を行い、循環器への影響を自律神経の観点から研究しました。また、ラットを用いて消化管に対する鍼の影響とメカニズムを明らかにしてきました。研究によって明らかになった事実が、少しでも多くの患者さんや鍼灸師の助けになれば幸いです。しかし、この5年間で大学院入学前の疑問をすべて解決することは到底できません。今後も大学院での経験を活かして、研究や教育に携わっていきたくと考えています。



岡田岬さん(写真右)学会参加中の様子

大学院保健医療学研究科開設

開設記念講演会を開催

2018年10月28日(日)、大学院保健医療学研究科開設を記念して講演会を開催しました。大阪府済生会吹田病院の院長 黒川正夫先生を講師にお迎えし、「肩関節・膝関節のスポーツ傷害の診断と治療 ～プライマリーケアとリハビリテーションの重要性～」をテーマにご講演いただきました。講演では、肩関節・膝関節に生ずるスポーツ傷害の中で、よく似た病態である反復性肩関節脱臼と前十字靭帯損傷に対する予防、受傷直後の診断とプライマリーケア、保存療法・手術療法、術後の再発予防のリハビリテーションについてお話いただきました。講演会には、学院の卒業生や在校生、医療関係者の方々など約150名が参加し、熱心に耳を傾けていました。



～教育振興会からのお知らせ～

総会の開催

2018年10月20日(土)「たには祭」の1日目に総会を開催し、役員を選出、事業計画、収支予算が協議され決定致しました。昨年発足したばかりの教育振興会。学生に対する支援の一環として、前期では、親睦行事(クラス懇親会等)で使用出来るBBQ窯の設置、「たには祭」をはじめとする様々なイベントや行事に利用可能なテント5張、熱中症対策として、学生が体育授業や課外活動時、自由に利用することができる大型製氷機の設置等を実施しました。後期には、クラブハウス前に大型洗濯機2台を設置、12月中旬から1月末までは10号館前にイルミネーションを取り付けるなど、学生生活が豊かになるようサポートをいたしました。また、今年度は教育振興会支援金の学生希望(使い道)アンケートを実施。学生たちからの声を、今後の支援活動に活かしていきたいと考えております。

役員紹介

会長 勝原 真一

副会長 藤岡 千恵美、角谷 英治(鍼灸学部長)

幹事 小野 洋子、山内 博美、福田 文彦(教学部長)、伊藤 肇敏(総務部長)

会計 辻 智幸、松原 亮二(経理課長)

監事 川上 賢治、山岡 一樹(事務局長)

事業計画

- 4月 ●オリエンテーション学生親睦行事 ●教育振興会役員会
- 6月 ●四大学連携キャリア懇談会・就職相談会(場所:森ノ宮医療大学)
- 8月 ●教育懇談会(3・4年生保護者)
- 9月 ●ポルトガル研修 ●看護学生修学資金貸与制度個別相談会
- 10月 ●たには祭 ●教育振興会(総会) ●教育懇談会(1・2年生保護者)
- 1月 ●入学前教育
- 3月 ●卒業式
- 通年 ●課外活動費補助 ●学生の海外研修支援 ●資格取得に係る支援
●食堂運営費補助 ●学生のボランティア活動に対する支援 ●学修環境の整備

第41回 たには祭「青春」

第41回「たには祭」もご支援をいただいた皆様のおかげで、無事に2日間を終えることができました。当日は、気持ちのいい秋晴れとなり、会場は活気に包まれ、来場者も笑顔で溢れていました。節目となる40回目を終え、新たなスタートを切った「たには祭」。テーマである「青春～開け、たにはの1ページ～」にふさわしい2日間を学生たちは過ごすことができ、青春の1ページに色濃く残る学園祭となったことと思います。

各模擬店では、経験豊富な上級生が1年生に準備から片付けまで一生懸命伝える姿が多く見られ、「たには祭の精神」が次世代へと受け継がれていくようでした。また舞台上では、園部吹奏楽団のオープニングセレモニーから始まり、キッズダンスやアーティストのパフォーマンス、吉本興業の芸人さん(トットさん)など多くの出演ゲストの方に「たには祭」を盛り上げていただきました。新たな1ページを刻みたいという実行委員たちの想いは、イベントに強く表れ、「ノーハンドブッチンプリン」や「炭酸一気」などこれまでの「たには祭」にはなかったイベントを実施。伝統あるイベントに負けず劣らず、学生や一般の方を大いに楽しませてくれました。



京都府中学校駅伝 アスレティックトレーナー部のボランティア活動



本学のアスレティックトレーナー部の部員達が、2018年11月10日(土)、11日(日)に開催された京都府中学校駅伝競走大会にボランティア活動の一環として参加しました。

この大会は、前年までの6年間は京丹後地区の宮津市で開催されておりましたが、今回からは、口丹波地区が担当地区となり、丹波自然運動2公園内をコースとして開催されました。

アスレティックトレーナー部はレース前日にケアブースを設け、選手たちのコンディショニングやストレッチ指導を実施しました。これまでトレーナーからのケア経験のなかった選手も、部員達が積極的に声を掛けることで、一人二人と体験を希望する人数が増え、最終的には整理券を配る程、大人気のブースとなりました。選手たちは、専門的な手厚いサポートに対して、「体が軽くなりました」「動きが良くなりました」などと喜んでくれました。また、指導者の方からも「あまりケア経験のない選手にとっては、自分の体を大切に扱うことを知る大変良い取り組みをしていただき感謝します」と、評価をいただきました。このような各種スポーツに携わる地道な活動は、トレーナー活動の理解や必要性を広めることとして大変有意義であったと思います。そして、その活動が今後将来の進路選択の一助になればと考えます。

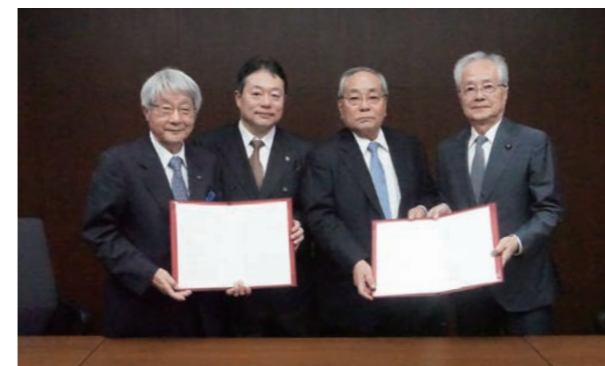
みんなの防災×救急救命学科

フジテレビが主催するイベント「みんなの防災」に本学の救急救命学科が参加しました。このイベントは、全国のイオンモールにおいて、一般市民の方に防災や救急救命処置について体験的に学んでいただくもので、本学は西日本(9月9日 兵庫県、11月4日 奈良県、11月18日 大阪府)を担当。当日は救急救命学科の教員に加え、学生数名も参加し、多くの親子連れの方に楽しみながら防災や「心肺蘇生法」などの救急救命処置について触れていただきました。今後も救急救命の啓発活動や地域貢献に積極的に取り組んで参ります。



東京有明医療大学と 包括的連携協定を締結

2018年11月20日(火)、本学と東京有明医療大学(東京都江東区)は両大学の教育研究の発展充実を目指し「大学間連携に関する包括協定」を締結しました。本協定は、両大学が教育研究等で連携を深めることで、教育研究活動の充実、学生教育の質的向上、教職員の資質向上及び大学間の交流等に寄与することを目的としています。調印式は、東京有明医療大学の8階特別会議室で行われ、東京有明医療大学の櫻井康司理事長と本間生夫学長、本学は谷口和彦理事長と矢野忠学長がそれぞれ協定書に署名しました。



釜山大学校(韓国)と 学術包括協定を締結

2018年11月8日(木)に韓国・釜山において、国立大学の釜山大学校韓医学部設立10周年記念式典が開催され、式典の中で本学と釜山大学校(Pusan National University(PNU))との学術包括協定の調印式が行われました。これにより、教員及び研究者交流、学生交流、共同研究、学術情報の分野で相互交流を図っていきます。



日本救急システム株式会社と 産学間の包括協定を締結

2018年11月30日(金)、本学と日本救急システム株式会社は、救急医療の教育研究の発展及び社会貢献に寄与することを目的とし、産学連携に関する包括協定を締結しました。本協定は、人材育成、教育研究の連携、産学間での共同研究などに関して相互に協力し、連携を進めていくこととしています。調印式は、本学8号館4階会議室で行われ、日本救急システム株式会社 代表取締役 白川透様と矢野忠学長がそれぞれ協定書に署名しました。

